
加来 徹 (バリトン)

Toru Kaku, Baritone

福岡市出身。東京藝術大学大学院修士課程を首席で修了。修了時に大学院アカンサス賞受賞、武藤舞奨学金を受ける。二期会オペラ研修所マスタークラスを総代で修了。最優秀賞および川崎静子賞受賞。

第20回友愛ドイツリートコンクール第2位。14年チャンネル・ピグマリオン・デイズアーティスト。

バロックから現代音楽まで幅広いレパートリーを持ち、バッハ・コレギウム・ジャパンでは「マタイ受難曲」のCDに参加する他、2021年1月の『エリ阿斯』ではタイトルロールを務め絶賛された。2026年3月から4月にかけて開かれるオランダバッハ協会の『マタイ受難曲』公演のソリストに抜擢され、オランダ各地での13公演の出演が予定されている。

東京オペラシティ文化財団主催リサイタルシリーズ《B→C》では東京、福岡両公演満席の中、10ヶ国語による歌曲プログラムを熱演した。

オペラでは日生劇場『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、『ランメルモールのルチア』エンリーコ、二期会『ナクソス島のアリアドネ』ハレルキン、『ジュリオ・チェザレ』アキッラ、黛敏郎作曲『金閣寺』鶴川、J.シュトラウスⅡ世『こうもり』ファルケなどに出演。二期会『ルル』では急遽代役として難役シェーン博士を演じ、表現豊かな演唱で観客を魅了した。2023年11月には二期会『午後の曳航』にて1号役を演じその歌唱力と演技力にて好評を博した。オペラだけでなく舞台・ミュージカル作品での演奏も好評で、日生劇場主催『アラジンと魔法のヴァイオリン』『アラジンと魔法の音楽会』ではアラジン王子役として全国でツアーを行なう。

2018-19日本フィル&サントリーホール《とっておきアフタヌーン》ではナビゲーターとして出演。

メディアでもテレビ朝日『題名のない音楽会』をはじめ、NHK-E テレ『すくすく子育て』NHK-FM『リサイタルノヴァ』などに出演し活動の場を広げている。

フィガロ技研（アルコール検知器）のCMに出演中。

これまでに5枚のソロCDをリリースしており、2025年4月に発売されたシューマン：詩人の恋／リーダークライス作品39などを収録した【TORU KAKU meets SCHUMANN】が好評発売中。その他、MSJ『フィガロの結婚』CDでフィガロ役などでも出演。2024年4月にはプロムジカ使節団のCD【イタリアンソング with 加来徹】でイタリア初期バロックのプログラムを演奏している。

Jリーグ「アビスパ福岡」の熱狂的サポーターとしても知られ、2021&2022 明治安田生命 Jリーグ開幕戦では国歌独唱も行う。女声合唱団「サーナ・テクセレ」音楽監督、混声合唱団「コール・グラウベン福岡」音楽監督。洗足学園音楽大学非常勤講師。

公式 SNS lit.link/torukaku

(令和7年8月現在・転載禁止)